



第十歩 余暇で良か

【余暇?】

(ゆ) 持て余すわー。

(毛) 何をそんなに持て余しているんです?

(ゆ) 時間よ、時間。今年は自分をバージョンアップさせるって決めたの。だから何か新しいことにチャレンジしたいのよ。刺激的な趣味とか何かないかしら?

(鈴) いいですね。僕らで良ければお手伝いしますよ。

(毛) “余暇”の有効活用ってやつですね。

(ゆ) えっ、ヨカ?聞きなれない言葉ね。

(鈴) ああ、余暇っていうのは

(ゆ) ちょっとお待ち!自分で調べるわよ。

(毛) ん?ゆうぼんそれ何?

(ゆ) 知らないの?水晶よ、水晶。お、見えてきたわよ、どれどれ。

【サービス使ってよかよか】

(鈴) ただね、障がいによってはその特性もあって、余暇を楽しむために一定のサポートを必要とする場合があるのも事実だね。

(毛) うん、そのために活用できるサービスもあるね。

(ゆ) へえ、例えばどんなことをするの?

(鈴) ヘルパーさんと一緒に映画館やプールに行ったり、地域のイベントに参加したりとかね。

(毛) あと通っている施設が外出の企画を立てているっていうのもあるね。

(鈴) 実は僕らも月に1回、知的障がい者を対象に、休日の余暇をみんなで過ごす「ゆうゆうすまいる」というサークル活動を企画しているんだ。

(ゆ) そうなのねえ、サービスの使い方次第では余暇の充実につながるってことね。

余暇とは仕事の合間などの自由に使える時間…ほほうなるほどね。

(毛) 多才な妖精だこと。

(ゆ) で、二人はその余暇とやらをいかにしてお過ごしなの?参考までに教えてくださらない?

(毛) 読書ですね。

(鈴) 絵画ですね。ちなみにゆうぼんは?

(ゆ) そうね、時間があればかんばんの斬新な使い方を思案しているわね。

(鈴・毛) ふ、ふーん。

(ゆ) 好きな事や趣味で気分転換できるのって素敵よね。ところで障がいのある人たちの余暇の過ごし方ってどんな感じなの?思い返すと、あまり考えたことがなかったかも。

(鈴) なるほど。であればこれをきっかけに知ってもらえれば

【市内イベントでよかよか】

(ゆ) 下野市は地域のイベントも豊富よね。余暇を楽しむにはとってもいい地域だわ。

(毛) そうだね、でも障がいがあることを理由に行きたいイベントへの参加を躊躇してしまうっていう人もいるんだ。

(ゆ) えっ?どういうこと?なんだか寂しい話。

(鈴) うん、最近はどここのイベントでもバリアフリーを意識した環境になっていることが多いけど、環境面以上にその場の雰囲気自分に受け入れてもらえるのか不安を感じている人もいるんだ。

(毛) 大事なところだよ。誰もが楽しめる雰囲気を作りたいよね。

(鈴) そうだね、そのためにはどんな配慮や工夫が必要なのかということも大事だけど、そういう人もいるっていう事実を色々な人に知ってもらいたいね。

OK!ではお伝えしましょう!心の準備はいいですか?

(ゆ) ドキドキ。

(毛) なんと、写真を撮ったり、ギターを弾いたり、アニメを観たり漫画を読むのが好きな人とか。

(鈴) 映画を観るのが好きな人も。あとアイドルの追っかけをしていたり、あっ、筋トレが日課って人もいたなあ。それから、それから。

(ゆ) ちょっとまって、これはきりがない!そしてなんだか普通だし。返して、私のドキドキを!

(鈴) むしろ何を期待してたんですか?

(毛) 当然ですけど、そこに障がいの有無は全く関係ございませんね。

(二人) そりゃそうだ!!

(ゆ) そうね、これからはしっかり伝えていくわよ、御二方!あ、そうだ。2月のイベントと言えば!ソレッツ、鬼は一外!福は一内!背負い投げえー!

(鈴・毛) えっ!?

■掲載内容、記事へのご感想をお待ちしております。

障がい福祉に関する現状など、皆様より掲載して欲しい内容がありましたら取り入れたいと思いますので、当センターまでご連絡ください。

今月1コマ

